

平成24年度 第2回湖東圏域公共交通活性化協議会総会

開催日 平成25年1月30日(水) 10時～11時30分

開催場所 彦根勤労福祉会館 大ホール

出席者 別紙参照

1 開会

2 議事

(1) 第1号議案について(資料1)

- 第1号議案 平成24年度収支予算補正につき承認を求めることについて、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下のとおり質疑応答が行われた。その後、会長職務代理人より承認を求めた結果、異議無く承認された。

● 武永会長職務代理人(滋賀大学)

- 当初予算額よりも大幅に乗合タクシーの運行費補助金が増えたということであるが、事務局から今後の見通しについて見解があればお願いしたい。

● 事務局

- 協議会の予算は1市4町の一般会計の予算と整合性を保っているものである。平成24年度当初予算案は、平成22年度と平成23年度前半の実績を参考として組んだものであったが、平成23年10月に乗合タクシーの料金値下げ等を行い利便性が向上した結果、予想を大幅に上回る乗合タクシーの利用者増となった。結果的に補正予算を組んで対応することとなった。平成23年度の利用者数は12,443人だったが、平成24年度末の利用者数見込は22,256人と、平成23年度よりも増加するものと見込んでいる。平成25年度も増加を見込んでいるが、23年度から24年度にかけての増加ほどの伸びはないものと予測している。平成25年度については3月に開催予定の総会にて詳しい数値を提供したい。

(2) 第2号議案について(資料2、資料3、資料5)

- 第2号議案 道路運送法第9条第4項及び同法施行規則第9条第2項に掲げる協議が整っていることの証明書(案)について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下のとおり質疑応答が行われた。その後、会長職務代理人より承認を求めた結果、異議無く承認された。

● 近藤副会長(滋賀県立大学)

- ブリヂストン線、多賀線の路線バス再編案については企業と細かく調整しながらアンケート結果にもとづいて検討されたもので大変素晴らしい。どの程度利用者が見込めるか試算はしているのか。

● 事務局

- ・ 企業アンケート結果に基づき、1日60名、往復120人増を見込んでいる。およそ概算の数値となるが、収支としては利用者増によって696万円程度の増収が見込まれる一方で、延伸、増便によって運行経費や人件費等が262万円程度の増となり、差し引き434万円程度の収支改善と見込んでいる。
- ・ 多賀の工業団地の参天製薬が本社機能を当地へ移転される予定から、100人程度こちらに異動されると聞いている。また、利便性が向上すれば他の企業もバス利用を検討されている。こうしたことから多賀線、ブリヂストン線の利用促進につながるのではないかと期待している。

● 近藤副会長（滋賀県立大学）

- ・ バス通勤者に対して、通勤手当の面からインセンティブを付与できる仕組みになれば、利用促進につながるはずであるが、そういったことは企業側と話をしているのか。
- ・ 今回の再編案はバスに乗ればサービスが上がるという好事例であり、是非、積極的に広報していただきたい。

● 事務局

- ・ 今回の延伸、改正については、工業団地企業側と協議を行っており、今回の協議会の承認をいただければ、それを報告、説明するとともに、各企業の理解を得て、エコ通勤に協力いただけるよう働きかけていきたい。

● 樋口委員（滋賀県バス協会）

- ・ ダイヤ調整はこれからということだが、企業アンケート結果では、7時～8時代に到着すると回答している人が多い。今回提案されたダイヤ（素案）と従業員のニーズがずれているのはなぜか。

● 事務局

- ・ アンケート結果を詳細に見ると、7時～7時半に到着する方よりも7時半～8時と回答している人数の方が多い。車両が2～3台しかない中で、最も効率的に利用者ニーズを満たせるダイヤとして、7時半～8時に到着するダイヤを組んでいる。なお、アンケート結果で最も回答者の人数が多いのは8：30～8：44であるが、既に8：18工業団地着の便があり、この時間帯のニーズは満たしているものと判断した。
- ・ アンケートのグラフの1目盛りは50人である。アンケートの回収実績は1,050件配布の774件回収で回収率73%、8：30頃の280人ぐらいが一番多い出勤時間となっている。この出勤時間の数値はバス以外の交通手段の方も含まれており、このうちバスに利用に転換可能な人数は60人程度と見込んでいる。

● 後藤委員（近畿運輸局）

- ・ 近畿運輸局ではエコ通勤を推奨しており、エコ通勤優良事業所認証制度への登録も呼びかけているので、是非、ご活用いただきたい。

- ・ 先ほど従業員へのインセンティブ付与の話が出たが、例えば企業単位で定期券、回数券を購入すると割引率が大きくなるといったことをしている自治体もあり、検討してはどうか。
- 事務局
 - ・ エコ通勤優良事業所認証制度については、各市町から企業に出向いて勧めていきたい。
- 小串（代理）委員（湖国バス）
 - ・ 現在企業単位での定期券、回数券割引についてはコミュニティバスとしては行っていない。要望があれば彦根市等と話し合っただけだが、過去にそういった割引制度を導入したところ、一旦支給を受けた企業の従業員が、翌日に窓口で払い戻すといった方がかなり多く、窓口で対応に追われた経験がある。せつかくの制度であるが導入に向けては慎重に検討したい。
- 若林委員（旧多賀町公共交通会議委員）
 - ・ ブリヂストン線、多賀線の日中のダイヤや運行本数はどうなるのか。従来どおりか。
- 事務局
 - ・ 湖国バスと調整中であるが、工業団地路線は朝晩の改正が中心であり、日中は変更しない予定である。
- 武永会長職務代理者（滋賀大学）
 - ・ 料金を割り引くことよりも、企業自体が努力してマイカー通勤を止めていただける方向にしないと行かない。大学では駐車場は与えないし、通勤手当も一定である。エコ通勤の推進に向けた工夫は民間でもやる必要がある。コミュニティバスは税金で賄っているものであり、企業の通勤者だけを優遇するというわけにはいかない。
- 近藤副会長（滋賀県立大学）
 - ・ 彦根ご城下巡回バスの一部路線廃止について、影響のある彦根ビューホテルと双葉荘の理解は得られているのか。
- 小串（代理）委員（湖国バス）
 - ・ 事業所と協議の結果、了承いただいている。
- 武永会長職務代理者（滋賀大学）
 - ・ 彦根ご城下巡回バスの利用者数はどの程度なのか。
- 湖国バス成田氏（小串（代理）委員同席者）
 - ・ 彦根ご城下巡回バスは4月の桜まつりやゴールデンウィーク、玄宮園のライトアップといった市内の観光イベントに合わせて運行しているものであり、4月の25日間で

1,000名程度利用があり、1日40名程度、1便あたり5～10名程度ご利用いただいている。

● 小串（代理）委員（湖国バス）

- ・ 彦根ご城下巡回バスはレトロなボンネット型の車両を使っており、夏場の運行はエアコンがないため乗客、乗務員ともに不快な思いをしている。時期によっては車両の入れ替えも必要と考えている。

● 近藤副会長（滋賀県立大学）

- ・ 観光案内のアナウンスができる名物運転手さんということであれば、面白いと思うが、近江鉄道が湖国バスに統合されるということで、ドライバーはこれまでから変わるのか。

● 小串（代理）委員（湖国バス）

- ・ 観光案内についてはボランティアガイドが同乗しており、基本的にドライバーは運転に専念することとしている。

● 武永会長職務代理者（滋賀大学）

- ・ 工業団地のアンケート調査について、先ほど報告があった結果の他に、JR、近江鉄道の乗り換え状況などは調べていないのか。

● 事務局

- ・ 本日の資料には記載していないが、従業員のお住まい、利用交通手段を尋ねており、調査結果から南彦根、多賀大社駅を利用されている方が多いということが判明したので、今回の提案となっている。

（3）報告事項（資料4）

- ・ 報告事項 これまでの路線バス・乗合タクシー実施状況について、事務局より資料に基づき報告がなされ、以下のとおり質疑応答が行われた。

● 近藤副会長（滋賀県立大学）

- ・ 要因ははっきりしていないところもあるが、路線バスの利用者が実際に増えたというのは大変素晴らしい結果であり、関係者はもっと喜んで良い。一方で欠損額が増えているということである。ベルロード線の車両リースは次年度以降も続くのか。
- ・ また、乗合タクシーの乗合率向上のために、乗り合って利用された方に対する割引は難しいものなのか。

● 事務局

- ・ ベルロード線の車両リースについては今年1月で一旦終了し、再リース契約となる。リース代は今年度よりも圧縮できると聞いている。

- ・ 乗合割引については、以前からご指摘をいただいているため、検討しているところだが、乗車前に運賃が決まっていなければならないという制度上の決まりがあり、乗合状態なるかどうか事前に本人に示せない状態では、割引運賃を適用するのは難しい。また、割引の目的は乗合率を上げて欠損額すなわち補助金を減らすことにあるが、割引によって収入が減少して逆効果という懸念もある。乗合による割引は全国的にも事例が少ないため、運賃以外で何かインセンティブを付与できないか、検討しているところである。
- 樋口委員（滋賀県バス協会）
 - ・ 彦根市にはひこにゃんという全国的にも知名度の高い資源があるので、活用しない手はない。例えば、彦根ご城下巡回バスに乗るとひこにゃんに会えるとか、限定のグッズがもらえるといった、何か工夫ができないか。
- 小串（代理）委員（湖国バス）
 - ・ 全国区のひこにゃんを活用出来たらと思うが、バスのラッピングについては商標登録の問題がある。彦根市さんと協議して出来るだけ観光都市としての売り込みもしていきたい。
- 事務局
 - ・ 基本的に車体にひこにゃんをラッピングにすることは、現在のところ商標登録上認められていないが、今後、商標登録の取り扱いについて本市担当部局と調整していきたい。
- 武永会長職務代理者（滋賀大学）
 - ・ ひこにゃんはイラストと着ぐるみの写真があるが、イラストに比べ着ぐるみの写真は自由が効くと思う。せっかくの財産なので大いに利用を検討してもらいたい。
- 近藤副会長（滋賀県立大学）
 - ・ アイデアレベルの話であるが、ゆるキャラをバスに乗せても問題はないか。
 - ・ ゆるキャラサミットのときに、遠方からのゆるキャラで、人件費の関係から着ぐるみだけが送られてきて、五環生活の学生が頼まれて中に入っていることがある。こうしたことから、着ぐるみを早めに送ってもらい、学生が着ぐるみを着て路線バスに乗っていれば、ゆるキャラサミットの前は、路線バスにどこかのゆるキャラが乗っているという宣伝になるのではないか。混雑していない路線で可能だと思うが。
- 後藤委員（近畿運輸局）
 - ・ ゆるキャラをバスに乗せることは、ガイドと同じ扱いであり問題はない。
- 武永会長職務代理者（滋賀大学）
 - ・ ゆるキャラ祭りの人気は高いので、盛り上がっているイベントは是非活用すると良い。

最初から当たり外れを考えず、まずはやってみることが大事。彦根はいい資源をたくさん持っているので、それを活用していただきたい。

- ・ ベルロード線の利用が少ないのは時間帯に問題があるのかもしれない。利用者が少ない便についてはどうするか、また3月の総会で協議したい。

● 近藤副会長（滋賀県立大学）

- ・ 湖東圏域の動向をつかんで路線を検討するにあたり、交通センサスのデータが活用できるのではないかと。
- ・ 乗り換え案内検索を提供している「駅すばあと」でバスもネット検索できるようになった。まだ知らない人も多いと思うので、こうしたサービスをいかに PR していくかが大事。

● 事務局

- ・ ご指摘の交通センサスというのは、10年に1回、近畿圏の人の動きを調査する「パーソントリップ調査」のことであるが、直近の平成22年の結果が先日公表されたので、次年度以降の作業になるかもしれないが、分析を進めて行きたい。
- ・ また、乗り換え検索については、近畿運輸局さん主導で「関西バス情報『見える化』推進プロジェクト」という名称で、複数の路線バス事業者同士や鉄道事業者との乗継を含めた経路検索がPCや携帯電話で一括してできる取組を推進されている。

● 後藤委員（近畿運輸局）

- ・ スルッと KANSAI に加盟している事業者については大手のプロバイダである「ジョルダン」、「駅すばあと」、「NAVITIME」、「ekitan」に路線、ダイヤ情報を提供して頂いている。スルッと KANSAI に加盟していない滋賀県内の、近江、湖国バスさんには、「駅すばあと」、「ジョルダン」にデータを提供いただいているほか、帝産湖南交通さんに働きかけている段階である。基本「駅すばあと」が無料であり他は有料であることから、無料である「駅すばあと」から順次進めている。

● 事務局

- ・ こうした便利なサービスは交通事業者とも連携して、広報なども活用しながら上手に PR していきたい。

● 武永会長職務代理者（滋賀大学）

- ・ 乗合タクシーの利用者は増加しているが欠損額も増加している。乗合率を高める工夫が必要である。どの程度利用が増えると、欠損額がどうなるか、というシミュレーションはしているのか。

● 事務局

- ・ 昨年運賃を値下げしたが、値下げによる利用者増は、シミュレーション以上の増加であった。乗り合い率を想定した利用者数についてはある程度シミュレーションできる

が、増えた利用者が果たして同じ時間帯に乗り合ってくれるかという予測は難しく、今後の課題と認識している。

3 その他

- ・ 今回承認いただいた、路線バス、乗合タクシーの変更は4月1日からの予定。
- ・ 次回の協議会は3月下旬を予定している。

4 閉会

以上